☆　「あいさつ」と「歌声」と「花」の学校　☆

加茂市立石川小学校
学校だより　通算３２７号
（令和３年度　第７号）
令和３年７月９日

みどりの風

（ＵＲＬ）http://www.ginzado.ne.jp/~k-iskwj/　（E-mail）k-iskwj@educet.plala.or.jp

校長　山本　哲哉

相手（子ども）のことを慮る

セーフティ・スタッフ面識会

１学期も残り少なくなりました。授業、学校生活、学校行事、遊びの中で、子どもたち一人一人は大きく成長しています。

挨拶、安全な登下校、家庭学習などにもしっかり取り組みました。「セーフティ・スタッフ面識会」終了後、スタッフさんに「ただいまぁ」と大きな声を届けてくれた子もいました。ここまで、全校で大きな事故や事件がないことも嬉しいことです。まずは１学期最後までよろしくお願いいたします。

これまで何度か紹介した、「心温まる話」を紹介します。

先月、民放のニュース番組で「バスと赤ちゃん」の話が紹介され、たまたま見ていた自分も心が動かされました。次のような話です。■「東京にいた今から１６年程前の１２月も半ば過ぎた頃のことです。私は体調を壊し、週２回、隣町の病院に通院していました。■その日は、今にも雪が降り出しそうな空で、とても寒い日でした。昼近くになって、病院の診察を終え、バス停からいつものようにバスに乗りました。バスは座る席はなく、私は前方の乗降口の反対側に立っていました。車内は暖房が効いていて、外の寒さを忘れるほどでした。■まもなくバスは大学病院前に着き、そこでは多分、病院からの帰りでしょう、どっと多くの人が乗り、あっという間に満員になってしまいました。■立ち並ぶ人の熱気と暖房で、先ほどの心地よさは一度になくなってしまいました。バスが静かに走り出した時、後方から赤ちゃんの、火のついたような泣き声が聞こえました。私には見えませんでしたが、ギュウギュウ詰めのバスと、人の熱気と暖房とで、小さな赤ちゃんにとっては苦しく、泣く以外方法がなかったのだと思えました。■泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは新宿に向かい走っていました。バスが次のバス停に着いた時、何人かが降り始めました。最後の人が降りる時、後方から、「待ってください。降ります」と、若い女の人の声が聞こえました。その人は立っている人の間をかき分けるように前の方に進んできます。その時、私は、子どもの泣き声がだんだん近付いて来ることで、泣いた赤ちゃんを抱いているお母さんだなと分かりました。■そのお母さんが、運転手さんの横まで行き、お金を払おうとしますと、運転手さんは「目的地はここですか？」と聞いています。その女性は気の毒そうに小さな声で「新宿駅まで行きたいのですが、子どもが泣くので、ここで降ります」と答えました。 ■すると運転手さんは「ここから新宿駅まで歩いて行くのは大変です。目的地まで乗って行ってください」と、その女性に話しました。■そして、急にマイクのスイッチを入れたかと思うと、「皆さん。この若いお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いて皆さんにご迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子どもは小さい時は、泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて行ってください」と、言いました。■私はどうしていいか分からず、多分皆もそうだったと思います。ほんの数秒が過ぎた時、一人の拍手につられて、バスの乗客全員の拍手が返事となったのです。若いお母さんは、何度も何度も頭を下げていました。■今でもこの光景を思い出しますと、目頭が熱くなり、ジーンときます。私のとても大切な、心にしみる思い出です。

大人の私も、仕事がうまくいかないと心がよどみ、嫌な表情を浮かべたりマイナス言葉を発したりすることがあります。でも、誰もが、いつでもまずは相手のことを考え、言葉を選び、穏やかなトーンで対応できれば、皆がにこやかに生活できると思います。学校・学級、地域・家庭でも、相手（特に目の前の子ども）のことを第一に考え、支えていくのが親・教員・大人の使命だと思いました。全国で起こっている虐待の事案‥。聞くたびに、心が痛くなります。